

句集

南溟北溟

Nanmei-Hokumei
Enomoto Yoshihiro

榎本好宏

飯塚書店

句集

南溟北溟

榎本好宏

飯塚書店

句集

南^{なん}溟^{めい}北^{ほく}溟^{めい}

平成二十七年五月二十九日 第一刷発行

著 者 榎本好宏

発行者 飯塚行男

発行所 株式会社 飯塚書店

〒一一二—〇〇〇二

東京都文京区小石川五—十六—四

TEL 〇三(三八一五)三八〇五

FAX 〇三(三八一五)三八一〇

編集 星野慶子スタジオ

印刷・製本 株式会社 キャップス

目次

平成二十三年	5
平成二十四年	35
平成二十五年	57
平成二十六年	85
あとがき	130

目次

平成二十三年	5
平成二十四年	35
平成二十五年	57
平成二十六年	85
あとがき	130

装幀
片岡忠彦

句集

南溟北溟

平成二十三年

八十六句

茶断ちせし事のいくたび初詣

蓬萊の飾りけふまで船溜り

辞世の句澄雄になかり寒の入

百歳は生き過ぎ葱の匂ひさせ

鶏鳴のけふことのほか冬旱

足袋の底少し汚れて女正月

男衆に酔ひのざはめきどんど焼

櫓の揃へてありぬ
獵また師ぎの家

氷柱垂るこの橋に兵送りしよ

鍋焼を誰も頼みし弓道部

産みたての筧に山盛り寒卵

冬帽を目深に松竹撮影隊

軍歌みな霜柱踏むやうにかな

炭爆ぜて火鉢まづ来る楽屋まで

吉日と祖父の筆書き狸毘

言ひ訳をすまじ氷柱を折りながら

春の雪絵馬に滲みて乾きけり

山焼へこの日はかりは切火して

片手拝み前に倣ひて山焼に

踝の丈に揃ひし芽麦かな

屋根替の茅のそろひぬ鐘楼に

さ 牡鹿の角を落しに斯く高く

雛 市の溢るる紅を眦に

三月十一日 瀬戸内寂聴さんの言に従ひて

もの 芽や念ずるほかに術持たず